



中川根南部小児童による和楽器演奏 (特別出演)

田代神楽保存会 (川根本町) 徳山古典芸能保存会 (川根本町) 清沢神楽保存会・笛披露 (静岡市) 諸沢神楽保存会 (静岡市) 川島神楽連 (熊本県) 杉沢比山連中 (山形県) 加殿神楽保存会 (伊豆市) 遠山霜月祭和田保存会 (長野県) 梶矢神楽団 (広島県)

# 舞い降りた

国民文化祭しずおか2009 神楽フェスティバル



1 梶矢神楽団の「鍾馗」。迫力ある鬼の面と所作は、大人でも恐ろしく感じる



3



2



4



6



5



# そして深まる人々の絆

全国の神々が集い、夢の競演を繰り広げる

静岡県初の開催となる「国民文化祭しずおか2009」。県内ほぼ全市町が参加したこの国内最大級の催しで川根本町は、神楽の祭典「神楽フェスティバル」を開催した。

神楽は、古来から農村に生きる人々の手によって守り伝えられてきた大切な神事。であると同時に、人々が生きる喜びを分かち合う、絆を深め合う場でもあった。

神楽フェスティバルは、駿河神楽が数多く伝承されている本町の特徴を生かし、全国の神楽同士の交流や連携を目的として企画された。多くの人が参加し、かわり合って催しは形づくられていった。

全国から18もの神楽団体が催しの主旨に賛同し、10月25日この地に集った。

## 神楽フェスティバル(25日)

神楽フェスティバルは10月25日、本川根小体育館で幕を開けた。中川根南部小児童による歓迎の和楽器演奏や、「神楽は土地の光となり得るのか」と題した神楽シンポジウムが開かれ、大勢の来場者がつめかけた。

舞台を田代大井神社に移しスタートした神楽の演舞。始まりは梶矢神楽団の「鍾馗」。鍾馗大神が大疫神を退治する物語を舞で表現する鬼舞の一種。豪快な所作が、来場者の目を一瞬で釘付けにした。ある来場者は「プロの舞い手かと思うほどの迫力。一番疲れているはずの終盤に、一番激しく回転するなんて思わなかった」と話していた。

続々と続く、特色ある神々の舞。舞台中央に竈を仕立て、その周りを舞う湯立ての舞や、逆立ちして舞台狭しと動き回る舞、両手の松明を一心不乱に振り回す火の舞など、一つとして同じ神楽はなかった。来場者は、ただ圧倒され、魅了された。

この日最後の登場は田代神楽保存会。6年ぶりの復活を遂げた「駒の舞」では、中学生男子3人が息の合った舞を披露し、来場者から大きな拍手が送られた。最後の演目「狩人」では、狩人と土地の者が愉快な問答を繰り広げ、あちこちから大きな笑いが沸き起こった。すべての演目が終了したあとも、拍手はいつまでも鳴り止まなかった。



神楽シンポジウム…神楽フェスティバルを監修した八木洋行氏(日本民俗学会会員)がコーディネーターを務め、各地に伝わる神楽の特長や性質、それぞれが持つ可能性などを追求した。パネラーは愛知県花祭会館伊藤勝文氏、山形県杉沢比山連中代表小野寺幸七氏、梅津神楽保存会代表筑地宣氏

PhotoReport 10・25sun▶26mon